

DMAT 隊員として能登半島地震を経験して

◎新保 美穂¹⁾、高田 真帆¹⁾、清水 賢樹¹⁾、山田 直子¹⁾、秋山 るい子¹⁾、清澤 麻紀子¹⁾、中河 竜也¹⁾、南部 重一¹⁾
富山県厚生農業協同組合連合会 高岡病院¹⁾

【はじめに】

DMAT とは、「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義されており、災害派遣医療チーム (Disaster Medical Assistance Team) の頭文字を略して DMAT (ディーマット) と呼ばれている。地震や津波、台風などの大規模災害や傷病者が発生した際に、48 時間以内の急性期から活動するための専門的な訓練を受けている。

今回、DMAT 隊員として能登半島地震を経験し、今後の課題を考察したので報告する。

【経過】

2022 年 11 月隊員養成研修に参加し、DMAT 隊員として登録。臨床検査技師としては当院では初めての登録であった。2023 年 9 月、政府による令和 5 年度大規模地震時医療活動訓練に参加。2024 年 1 月 1 日発生の能登半島地震では DMAT 派遣 2 次隊として 1 月 4 日より医師 1 名、看護師 2 名、業務調整員 2 名 (臨床工学技士、臨床検査技師) のチームに参加した。活動内容は 5 日早朝から公立能登総合病院での本

部活動、6 日から 8 日までの市立輪島病院支援指揮所の本部活動である。2 月 3 日実施の DVT 検診では輪島市までの愛知県チームの運転手として参加した。

【考察・課題】

DMAT 隊員として初めての活動は、実動訓練とは全くの別物であった。災害時に想定される道路状況や移動手段、燃料補給方法、通信手段の確立など、自身の準備不足を実感し、CSCA の大切さを再認識することができた。県内の DMAT 研修会や院内での DMAT 部会での活動報告等は行っているが、チーム内での反省会等も行われていない。初参加の隊員もおり、チーム内での反省点などを振り返る機会があるべきではないかと考えられた。

連絡先 : 0766-21-3930 (内線 3451)